

■教育目的

医薬品の研究開発、製造、品質評価を行なうため、ミクロな物性の捉え方として分光学、電磁気学的な手法がある。近年、これらの技術の進歩は著しく、薬学のあらゆる分野はこれらを利用した分析機器で支えられている。医薬品の構造を解析するものもこれらの機器が使用されている。本科目では各種分析法の基礎となる原理、装置、測定法および構造解析の応用について学習する。【卒業認定・学位授与の方針：YD-①、YD-②、YD-⑤】

■学習到達目標

1. 溶液の性質、電気化学、原子・分子の挙動について理解し、国家試験問題を解く力をつける。(知識)
2. 授業内容を理解し、各種分析法の基礎となる原理、装置、測定法を理解する。(知識)
3. 各種スペクトルを用いて構造解析することができる。(知識)

■準備学習（予習・復習）

予習：授業予定範囲について教科書または配布資料の内容を把握する(20分以上)。

復習：配布資料および課題を見直す。またスペクトル解析の問題を解き、しっかり内容を理解する。(30分以上)

■授業形態

講義

■授業内容

No.	項目	授業内容	備考・SBOコード
1,2	溶液の性質	強電解質、弱電解質、電気伝導率、モル伝導率、極限モル伝導率、コールラウシュのイオン独立移動の法則	C1(2)-⑥-3
3-5	電気化学	化学電池、アノード、カソード、半電池、起電力、標準電極電位、電気化学の仕事、ネルンスト式、濃淡電池	C1(2)-⑦-1,2
6	原子・分子の挙動	電磁波、ランベルト・ベールの法則、回転遷移、振動遷移、電子遷移、基準振動、蛍光、りん光	C1(1)-③-1,2 C2(4)-①-1,2
7	紫外・可視分光(UV)赤外分光法(IR)	UV と IR による構造解析	C1(1)-③-2 C2(4)-①-1,-3 C3(4)-②-1,2
8	質量分析法(MS)	原理、装置、イオン化(種類)、フラグメンテーション、スペクトルの読み方	C2(4)-③-1 C3(4)-③-1~4
9-12	核磁気共鳴分光法(NMR)	原理、装置、原子核とスピン運動、磁場とスピン運動、核磁気共鳴条件、化学シフト、結合定数、スペクトルの読み方	C1(1)-③-3 C2(4)-②-1 C3(4)-①-1~5
13-15	各種スペクトル演習・構造解析	上記の各種スペクトルを活用した日本薬局方収載医薬品および関連化合物の構造解析と同定法、国家試験過去問解説	C2(4)-①-6 C3(4)-①-5 C3(4)-④-1

■授業分担者

飯田克巳(No.1~6)、高取(木下)薫(No.7~15)

■課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

試験の成績(100%)で総合評価を行なう。

7-15の内容については、課題(出席確認)を提出してもらい、解説もしくは模範解答を示すことでフィードバックを行う。講義資料および課題はMY-CASTにアップロードする。講義や定期試験に関する質問等は個別に受け付け、解説、説明する。

■教科書

「スタンダード薬学シリーズⅡ② 物理系薬学Ⅰ 物質の物理的性質」日本薬学会編(東京化学同人)

「構造解析プラクティス第2版」桑島、森川、田邊 編著(京都廣川)

■参考書

「有機化合物のスペクトルによる同定法(第8版)」R. M. Silverstein, F. X. Webster 著(東京化学同人)

「スタンダード薬学シリーズⅡ② 物理系薬学Ⅲ 機器分析・構造決定」日本薬学会 編(東京化学同人)